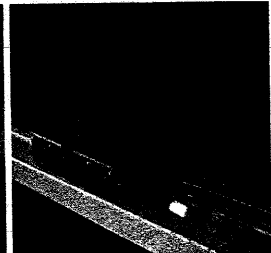
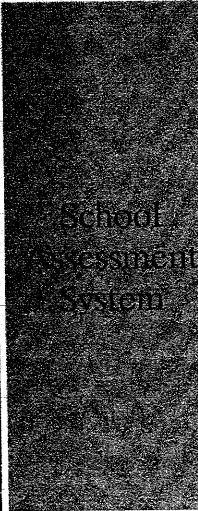
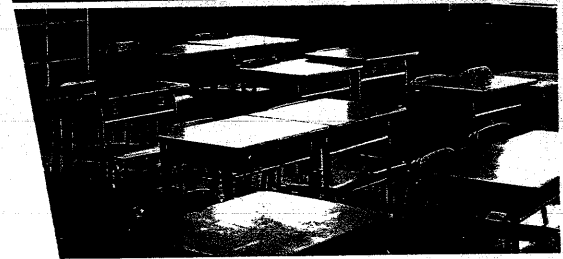
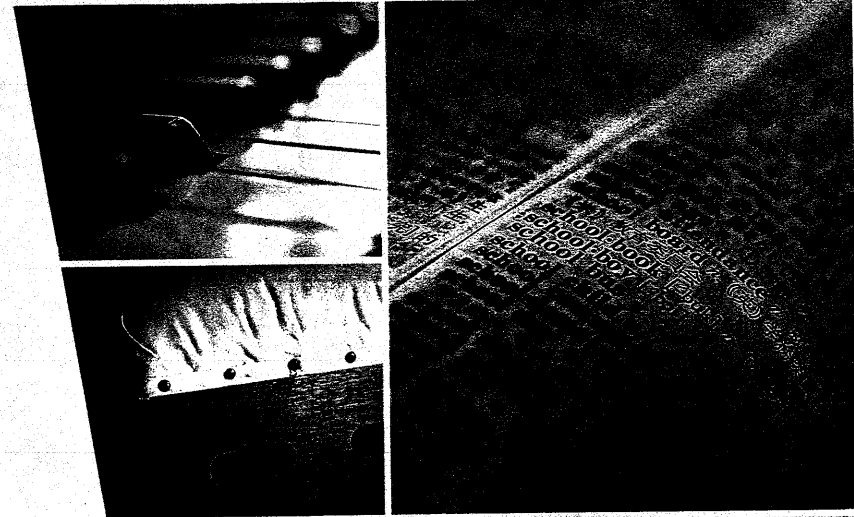


学校評価システムの在り方



学校評価システムの在り方

平成15年3月

宮崎県教育委員会

平成15年3月
宮崎県教育委員会

1 なぜ今、学校評価なのか

(1) 国の大きな流れ

① 中央教育審議会答申（平成10年9月21日）

第3章 学校の自主性・自律性の確立について

6 地域住民の学校運営への参画

学校が地域住民の信頼にこたえ、家庭や地域が連携協力して教育活動を展開するためには、学校を開かれたものとするとともに、学校の経営責任を明らかにするための取組が必要である。このような観点から、学校の教育目標とそれに基づく具体的教育計画、またその実施状況についての自己評価を、それぞれ、保護者や地域住民に説明することが必要である。

② 教育課程審議会答申（平成12年12月4日）

第4章 教育課程の実施状況等から見た学校の自己点検・自己評価の推進

ア 各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である。

イ 各学校が行う自己点検・自己評価の内容としては、教育課程の編成状況・実施状況、指導方法や指導体制の工夫改善の状況、児童生徒の学習状況等があるが、具体的な項目、方法等は、各学校や設置者が地域や学校の実態に応じて適切に工夫する必要がある。

ウ 各学校における自己点検・自己評価に当たっては、学校評議員制度を活用するなどにより、結果を保護者や地域の人々に説明することが重要である。また、点検・評価の実施に当たっても、保護者や地域の人々の声を参考に進めることが大切である。

エ 今後、各学校における自己点検・自己評価が適切に行われるよう、関係機関において自己点検・自己評価の内容、方法、公表の在り方等についての研究開発を進めることが必要であり、それらに基づく各学校での実践を進めることが期待される。

③ 教育改革国民会議 ～教育を変える17の提案～（平成12年12月22日）

4 新しい時代に新しい学校づくりを

◎ 地域の信頼に応える学校づくりを進める

学校、特に公立学校は、努力しなくてもそのままになりがちで、内からの改革がしにくい。地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支え合う社会と学校を目指すべきである。

提言

(1) 保護者は学校の様々な情報を知りたがっている。開かれた学校づくり、説明責任を果たしていくことが必要である。目標、活動状況、成果など、学校の情報を積極的に親や地域に公開し、学校は、親からの日常的な意見にすばやく応え、その結果を伝える。

(2) 各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる。

④ 小学校設置基準（平成14年3月29日改正・平成14年4月1日施行）

第2条 小学校は、その教育水準の向上を図り、当該小学校の目的を実現するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

2 前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定して行うものとする。

※「中学校設置基準」「高等学校設置基準」にも同様の規程あり。

(2) 国の大きな流れを受けて宮崎県では、

① 「宮崎の教育創造プラン」（平成15年2月）

創造の視点3 主体性を持った特色ある学校の創造

〈施策〉 学校運営の改善充実

学校の組織と教育活動の活性化を図るため、学校の自己評価を実施する体制の整備を行い、評価結果等を保護者や地域へ説明するシステムの構築が必要です。

② 県立高等学校管理運営規則（平成14年4月）

第7章 管理及び運営（自己評価）

第98条 校長は、教育水準の向上を図り、学校の目的及び目標を達成するため、学校の教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表することに努めるものとする。

※「県立の盲学校、聾学校及び養護学校の管理運営規則」、「県立中等教育学校管理運営規則」、市町村立学校の管理規則等にも同様の規程あり。

③ 本県の基本的な考え方

「宮崎の教育創造プラン」の創造の視点3にもありますように、学校が説明責任の意義を十分に踏まえ、積極的な情報提供を行い、保護者や地域住民の意向を把握・反映するために、学校評議員等を活用し、学校運営の改善充実に努めていく必要があります。

それらを可能にするためには、各学校が地域住民の信頼に応え、家庭や地域社会と連携協力して積極的に教育活動を展開し、学校を地域に開かれたものとするとともに地域への教育施設としての客観性の確保や学校の経営責任を明確にする必要がある。このような観点から、学校の自主性・自律性を高め、学校の組織と教育活動の活性化を図るため、各学校において、学校自己評価を実施する体制の整備を行い、評価結果等を保護者や地域住民に説明するなどの「学校の自己評価システムの整備」に努めていきたい。

2 これまでの評価活動とこれからの評価活動

① これまでの評価活動

学校はこれまで、行事の後や年度末に教育活動を振り返り、互いに意見を出し合い、次の改善を図ることを目的として評価を行ってきました。

しかし、その評価活動には次のようないくつかの問題点が指摘されています。

これまでの評価活動の多くは、行事が終わったときや年度末などの教育活動が終了したときに行うことが多く、活動の途中で行うことが少なかった。

関係者からの意見や感想が多く、具体性や客観性にやや欠ける面があった。

次への課題は検討されるが、具体的な改善提案などの十分な話し合いがなされないままに年度を終えてしまうことが多かった。

反省や評価をするときのもとになる資料の内容が、意見を求めやすい校内の教職員によるものに限定されがちである。

② これからの評価活動

これからの評価活動は、評価することで見つかった改善点を次の活動につなげていくことが何よりも大切になっていきます。

それに加えて、「改善を図る」という評価活動のねらいそのものについて考え直していくことも大切です。評価活動の結果から分かるものは、改善点だけではありません。児童生徒のよさや学校・教職員のよさもあります。それらのよさを浮き彫りにしていくという視点を取り入れていくことが必要になってきます。そのような考えから、宮崎県では、問題点を改めることを強く意識する「改善」ではなく、よさを含めて新しく次の1歩を踏み出す「更新」という言葉を使用しています。

さらに、評価活動を支える具体的で客観的な事実を得るための1つの方策として、できるものについては、数値化した基準等を利用していくことも検討して下さい。

このようなことから、これらの評価活動において、次のようなことを行うことが大切になってきます。

- 年度末だけでなく、途中でも何度か中間評価を行う。
- 努力目標を実現するために、教育活動の達成状況を判断する具体的でわかりやすい基準を設定し、その基準に基づいて行う。
- 多くの意見を生かしたより客観的な評価活動を行う。
- 児童生徒、保護者、地域の人々等が納得できる、具体的あるいは客観的な事実をもとに、結果責任が果たせるようにしていく。

確かな教育活動が継続され、納得と信頼を得るためには、評価活動が有効に機能しなくてはなりません。そのためにも、上記のような評価活動を学校経営の中の1つのシステムとして確立させていくことが大切です。

3 だれが、何を、どのように評価するのか。

Q1

評価を行うのは誰ですか。

A1

学校づくりのスタートは、足もとを見つめることです。それは、次の2つの声に耳を傾けることです。

1つは、学習者である児童生徒、その保護者や地域の人々の声です。

もう1つは、目頃ともに教育活動を実践している教職員の声です。

様々な声に耳を傾けて、学校の状況を的確に把握することが大切です。

研究協力校の吾田小学校では、教職員や保護者による評価、広瀬中学校では、保護者や地域住民等による学校行事の評価、飯野高等学校では、生徒による授業評価を実施し、成果を上げています。

詳しくは、別冊の「学校評価の研究実践校報告書」をご覧ください。

Q2

保護者や地域の人々による評価を行うのですか。

A2

2ページの小学校設置基準等においては、自己評価の実施とその結果の公表に関する努力義務規程が設けられましたが、学校の教職員以外の者による評価については、規定していません。

しかしながら、学校や地域の状況等に応じて、自己評価だけでなく保護者や地域住民等が評価を行うことは、先の吾田小学校や広瀬中学校の例を挙げるまでもなく有効な方法です。

大切なことは、保護者や地域の人々を評価者にするることにより、保護者や地域の人々の学校への関わりを高めていくなかで学校を地域に開かれたものにするということです。

Q3

評価を行う場合の組織は、どのようなものが考えられますか。

A3

広瀬中学校では、校内に「学校評価システム推進委員会」を設置し、学校全体で学校評価に取り組む体制づくりを行っています。学校の状況に応じて異なりますが、「学校評価システム推進委員会」の構成員に、校長が教職員を指名し、学校評価計画の作成、学校評価の実施及び評価結果の集計、分析などを行うことが考えられます。

Q4

盲学校、聾学校及び養護学校でも、自己評価や情報の提供などを行うのですか。

A4

今回、盲学校、聾学校及び養護学校においては、省令に規定していません。しかしながら本県の県立の盲学校、聾学校及び養護学校の管理運営規則には、規定されていることから、自己評価の実施やその結果の公表、情報の提供などに積極的に努めることが求められています。

Q5

学校や教育委員会は、評価方法について研究する必要はあるのですか。

A5

設置基準等においては、自己評価の実施とその結果の公表に関する努力義務規程が設けられていましたが、その具体的な方法については、各学校の適切な判断に委ねられていることから、学校や地域に応じた効果的な自己評価の実施方法等を開発する必要があります。そこで本県では、「学校の評価システムの確立に関する調査研究」を文部科学省の委嘱を受けて、平成14年度から3年計画で取り組んでいます。また、市町村によっては、既に研究に取り組んでいるところもあり、研究協力校を拡大しながら、県内の各学校で自己評価の実施とその結果の公表ができるようお願いしているところです。

Q6

評価対象は、どのようなものが考えられますか。

A6

2ページの小学校設置基準においては、「教育活動その他の学校運営の状況について」自ら点検及び評価を行うと規定されています。したがって、自己評価の評価対象は、例えば、学校の教育目標、教育課程、学習指導、生徒指導、進路指導等の教育活動の状況及びその成果だけでなく、校務分掌、教職員全体としての状況、家庭と地域の連携、事務処理施設・設備等が考えられ、学校としての活動全体がその対象になります。

Q7

評価項目は、どのようなものが考えられますか。

A7

評価項目は、児童生徒、保護者、地域住民にとってわかりやすいものでなければなりません。そういう意味においても、具体的・客観的に検証可能なものにする必要があります。また、評価項目の設定に当たっては、校長の権限と責任を制約することがないように留意することも大切です。評価項目によっては、数値化できないものもありますが、児童生徒や保護者等にアンケート調査を行うことによって客観的なものにすることが求められます。

評価項目の例としては、

- 学校経営 学校目標の認知度や参観日の出席率 等
- 教科指導 テストの通過率や(検定)資格取得率 等
- 研究・研修 授業評価の実施回数 等
- 進路指導 進路相談の回数や職場体験学習への参加数 等

これらの教育活動の状況及びその成果が考えられますが、校務分掌が、学校教育目標の具現化に機能しているか、保護者は、学校経営や授業内容を理解しているかなどの家庭と地域の連携なども考えられ、学校としての活動全体がその対象になります。

Q8

授業評価は、行う必要はありますか。

A8

授業評価は、学校の評価の大きな柱になると考えています。飯野高等学校では、授業を5項目の視点から生徒が評価し、それを参考にすることにより授業改善に役立てています。

Q9

評価結果の公表は、どのような方法で行いますか。

A9

2ページの小学校設置基準において、「自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする」と規定されています。具体的にどのように評価結果の公表を行うかについては、それぞれの学校や地域の状況等に応じて、各学校や教育委員会が適切に判断することになります。例えば、学校は、その取組み状況や課題、具体的な教育活動、中間評価、そして結果などをPTA総会や学級懇談会など直接的に伝える機会をはじめ、学校からのたよりやホームページなどを使い、積極的に発信していくなど適切な方法を工夫することが重要です。

Q10

学校の自己評価は、具体的にどのような方法で行いますか。

A10

宮崎県では、次ページで示すように、PLAN(計画)→DO(実行)→CHECK(評価)→ACTION(更新)というマネジメントサイクルの考え方を学校の自己評価を行う際に導入することを推奨していこうと考えています。なお、このマネジメントサイクルを1年間だけのサイクルとしてだけでなく、学期単位または1つの課題解決のために月単位などあらゆる場面において利用していくことが大切です。

例えば、

- 1年間だけのサイクルとして考えられる評価項目の設定例
 - ・思いやりのある心豊かな児童生徒を育成する。
 - ・児童生徒の基本的な生活習慣を確立させる。
 - ・児童生徒の学力を向上させる。
- 学期単位のサイクルとして考えられる評価項目の設定例
 - ・基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための個別指導を单元テストや定期テストの前に行う。
 - ・学期ごとに担当教科を越えた授業公開週間を設定し、授業改善に資する。
- 1つの課題解決のために月単位などで考えられる評価項目の設定例
 - ・生徒指導の情報交換会を校内で月に1回開催する。
 - ・清掃活動の徹底のため、清掃のチャイムが鳴ったときに教師が清掃場所にいる。

イメージとしては、次ページを参考にしてください。

4 学校評価システムとしてマネジメントサイクルの導入を

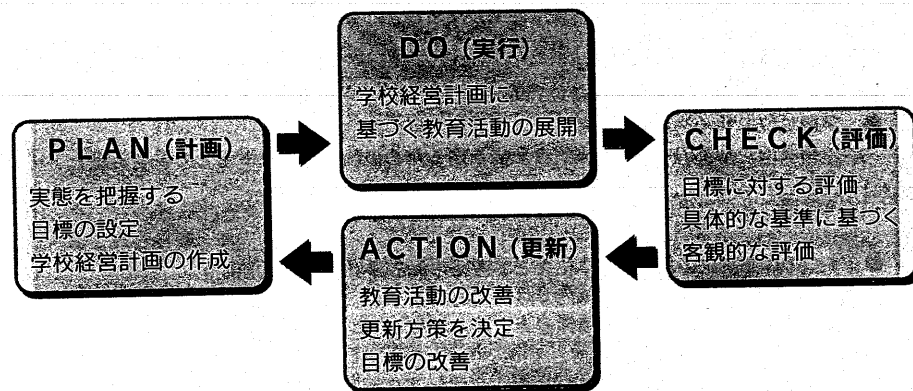
学校が、保護者や地域住民の信頼に応え、家庭や地域と一体となって教育活動を展開していくためには、学校の目標や活動状況、成果など教育活動全般の情報を積極的に発信し、学校は、保護者や地域住民からの意見や要望に的確に応え、その取り組みや成果を説明するという説明責任を果たしていくことが求められています。

そのためには、学校教育活動の過程や成果を明らかにすることができる学校評価システムを導入することが有効であります。

これまで学校においては、目標を立て、実践した後、その内容や活動に評価を行う取り組みは行われていましたが、教育目標や教育計画などが、具体的で検証可能なものとなっていなかったため、客観的で十分な評価が行われず、教育活動の改善や次年度の目標に反映されていないという状況が見られました。

そこで、これからの学校においては、次の図で示すようなPLAN（計画）－DO（実行）－CHECK（評価）－ACTION（更新）というマネジメントサイクルの考え方をあらゆる場面において導入し、PLAN（計画）の段階から客観的な評価が可能となるような計画を策定すれば、これまで不十分であったCHECK（評価）－ACTION（更新）の取り組みをより一層充実させるものにつながっていくと考えています。

そして、1番大切なことは、前ページでも述べましたように、1年間のサイクルとしてだけでなく、学期単位または1つの課題解決のために月単位などであらゆる場面において、このマネジメントサイクルを利用していくことが大切です。



5 マネジメントサイクルの実際

PLAN ~ 計画する

前回の実施内容を確認する



事態を把握する



目標を設定する



評価の基準を設定する

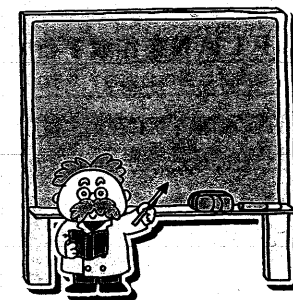


前回の実施状況を踏まえ、児童生徒の実態を把握し、つきたい力や目指す姿を設定していきます。その際、事態把握を正確に行うことや具体的な目標設定がより大きな効果を生みます。評価の基準については到達度を明確にし、教職員間での共通理解を図ります。

DO ~ 実行する

教育活動を展開する

児童生徒の実態に即した、新しい活動や取り組みを柔軟に取り入れます。保護者や地域の方々への公開や、実際に活動に参画してもらうことも想定します。活動内容については、できるだけスモールステップを設け、到達度がわかりやすくなるようにします。



CHECK ~ 評価する

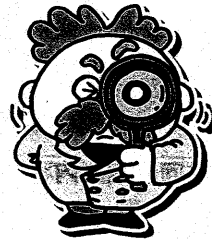
評価の基準に沿って評価する



評価を集約して教育活動の妥当性を検討する



目標や評価の基準の妥当性を検討する



当初目指した目標や評価の基準が妥当であったのかも検討します。その際、これまでのように教職員の評価に限定するのではなく、児童生徒の自己評価や相互評価、教育活動に関する保護者や地域の方々の意見も集約します。公開についても検討します。

ACTION ~ 更新する

目標を見直す



教育活動や評価の基準を見直す



PLANを作成する準備を整える



評価の結果を次に生かす視点で取り組みます。まず、児童生徒の実態を再度正確に把握し、目標としたつけたい力や目指す姿をもう一度練り直します。次にそれに伴って教育活動や評価の基準を整え直します。同時に、必要ならば学校の教育環境の改善や支援体制の整備にも取りかかります。

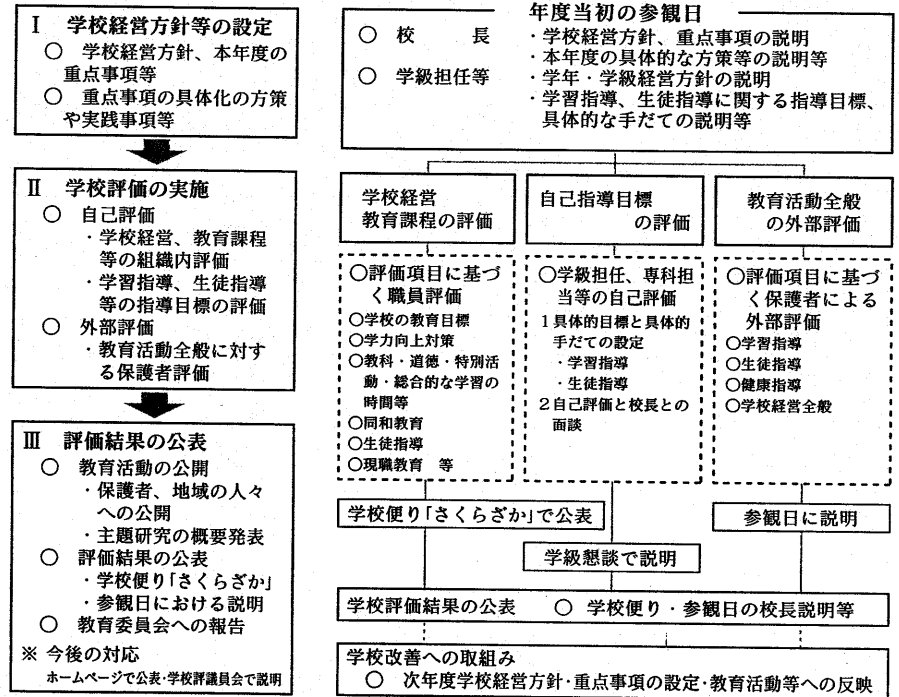
6 各学校における学校評価の紹介

日南市立吾田小学校

(1) 目的

学校の教育活動全般について客観的・総合的に評価することを通して、教育活動の改善を図ることや教職員の指導力に資する。また、その評価結果を家庭、地域社会に公表することにより、家庭や地域社会との連携を強め、地域に根ざした開かれた学校づくりを目指す。

(2) 実践例



(3) 成果と課題

〈成果〉

- 学校経営全般について課題が明確になり、改善の方向性をもつことができた。
- 評価の視点の明確化による指導法改善等への意欲化が見られた。
- 保護者、地域の人々の学校に対する理解が深まり、協力体制が強化されてきている。

〈課題〉

- 学校評価に関する評価内容・項目の吟味や評価基準の設定が必要である。
- 理解を深める評価項目の設定、公表内容等組織における評価システムの確立が必要である。
- 外部評価の積極的な取組みと評価結果の生かし方をさらに研究する必要がある。

(1) 目的

「中学校設置基準」(平成14年文部科学省令第15号 平成14年3月29日公布)が制定されたことを受け、佐土原町の学校管理規則にも「校長は、必要に応じ学校の教育目標、教育計画及び自己評価を年度当初に保護者等に説明するものとする。」(第71条)と「学校の自己評価及び保護者等への説明」について規定された。

学校は、その教育水準の向上を図り、学校の目的を実現するため、教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。規定を見る限り「自己評価」であり、いわゆる「外部評価」についての規定はない。しかし、文部科学省通知に示された留意点の一つに「自己評価だけでなく、保護者や地域住民を加えて評価を行ったりする工夫も考慮すること」が挙げられている。開かれた学校づくりを目指すうえで、外部評価の導入は避けてはとおれない。

学校では、これまでも活動ごとに評価を行い、その改善・工夫を行ってきた。しかし、これは内部だけの評価であり、学校の教職員以外の立場での評価を取り入れるということはなかった。

そこで、開かれた学校づくりという観点からも、外部評価を取り入れ、その評価を謙虚に受け止めることにより、これまでと異なる改善・工夫の視点を得ることをねらいとして、その導入に取り組むこととした。

(2) 実践例

5名の学校評議員と各学級を代表しての保護者にアンケート形式で評価を依頼した。外部評価を試みた活動場面は、「体育大会」と「文化発表会」である。

ア 体育大会

・「生徒の様子」について、競技への取組みや応援態度など5項目を設定し、4段階評定とした。

・結果については、学校便りを各家庭に配付するとともに地区での回覧も依頼した。

イ 文化発表会

・「生徒の様子」について、発表への取組みや鑑賞態度など6項目を設定し、4段階評定とした。

・結果については、学校便りを各家庭に配付するとともに地区での回覧も依頼した。また、学校評議員自ら、鑑賞した感想を機会あることに紹介していただいた。

(3) 成果と課題

外部評価導入に当たっては、公表を前提としていただけに、結果がでるまでの間も結果が出た後も身の引き締まる思いであった。

成果としては、次のような点が挙げられる。

・生徒の様子を見ての評価であるが、同時に指導者の指導力が評価されていることを認識できた。

・外部評価であるだけに、地域住民にも、よい点、改善すべき点があるまま伝わることになり、率直な意見交換ができるようになった。

また、課題としては次のような点が挙げられる。

・学校評議員以外の評価者として、誰をどのようにして選ぶか。

・評価の活動場面をどの程度設定するか。

(1) 目的

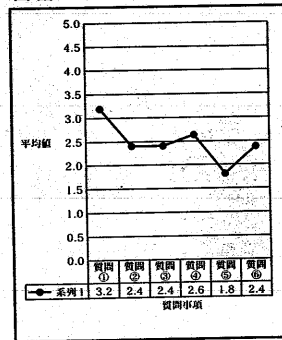
① 教師が学習指導の改善を行い、生徒一人一人にその場面で最適の方法を選び、学習状況を的確に捉えているかどうかを客観的に判断する。

② 評価を分析し、発問の工夫等のフィードバックを行うことで授業の改善を図り、「わかる授業」「参加する授業」「生徒指導を機能させる授業」を目指す。

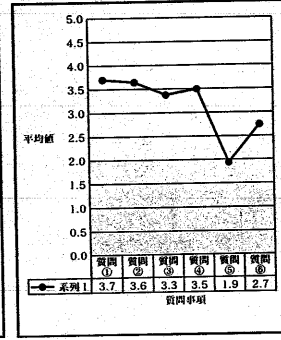
(2) 実践例

	国語						倫理						数学					
	質問①	質問②	質問③	質問④	質問⑤	質問⑥	質問①	質問②	質問③	質問④	質問⑤	質問⑥	質問①	質問②	質問③	質問④	質問⑤	質問⑥
総点	132	99	99	108	74	97	150	148	136	144	78	110	138	118	109	120	93	109
平均	3.2	2.4	2.4	2.6	1.8	2.4	3.7	3.6	3.3	3.5	1.9	2.7	3.4	2.9	2.7	2.9	2.3	2.7
5	6	1	1	2	0	0	11	10	6	7	1	1	9	4	5	4	0	0
4	6	6	5	5	1	3	6	7	9	11	2	6	4	7	3	6	4	7
3	20	10	14	18	9	15	23	22	18	19	7	16	23	15	14	18	14	19
2	9	16	11	8	12	17	1	2	8	4	13	15	3	10	11	9	12	9
1	0	8	10	8	19	6	0	0	0	0	18	3	2	5	8	4	11	6

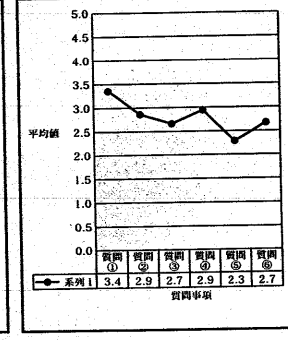
国語



倫理



数学



質問①	授業を受ける準備、心構えができていますか。
質問②	授業中の先生からの発問、説明、板書はわかりやすいですか。
質問③	あなたにとって「わかる授業」になっていますか。
質問④	参加する授業になっていますか。
質問⑤	あなたは予習または復習を毎日行っていますか。
質問⑥	あなたは基本的な知識や技能がしっかりと身についたと思いますか。

1	良い
2	
3	普通
4	
5	良くない

(3) 成果と課題

① 生徒による学習に関するアンケートの成果として、教師が授業の主役は生徒であることを再認識することができた。

② 生徒による学習アンケートをどこまで配付するかを現在検討中である。現在、本校職員と学校評議員に配付している。

学校評価の研究実践校
報告書

研究実践校

日南市立吾田小学校
佐土原町立広瀬中学校
宮崎県立飯野高等学校

平成15年4月

宮崎県教育委員会

学校評価と説明責任の在り方

日南市立吾田小学校

I 学校評価についての年間の取組

本校においては、一学期段階より「学校評価と説明責任の在り方」について研究を継続してきたが、まだ十分な成果を得るまでには至っていない状況である。これまでの研究内容については以下に示すように過去2回の「学校の評価システムの確立に関する協力者会議」において明らかにしてきた。

3学期の研究内容については、まだ継続中であり、整理ができていないが、その概要については、資料に示すような状況である。今後、さらに検討を加え、次年度の学校経営や実践に生かしていきたいと考えている。

1 一学期の取組

(1) 学校評価と説明責任についての理解

- ・ 職員の理解と意識の向上
- ・ 参観日の校長講話の実施による保護者の理解

(2) 学校評価の具体化（「教育課程の評価」による学校評価）

- ・ 全職員による評価
- ・ 保護者への説明 — 学校便り「さくらざか」で二学期に公表

2 夏季休業中の研修

- (1) 学校設置基準と学校管理規則についての研修
- (2) 学級の学期達成目標の設定と自己評価の実施
- (3) 自己評価結果の管理職への報告、保護者への説明

3 二学期の取組

- (1) 学級の学期達成目標の設定と自己評価
- (2) 自己評価の結果についての校長・教頭との面談
- (3) 一学期の「教育課程の評価」の公表 — 学校便り「さくらざか」
- (4) 運営指導部の自己評価と公表内容についての研究
- (5) 外部評価の導入についての研究

4 三学期の取組

○ 二学期の取組の継続

- ① 学期達成目標の設定と自己評価、保護者への説明
- ② 「教育課程の評価」を「さくらざか」（学校便り）で公表

- (1) 学校の教育活動の公開 → 参照【資料1・P2】
 - ① フェスタ in 吾田 — 保護者、地域の人々に学習状況等を公開
 - ② 主題研究の概要公表 — 参観日の校長講話で説明

- (2) 外部評価表の作成と実施 → 参照【資料2・P3 資料3・P4】
 - ① 外部評価表 — 吾田小学校の1年間を振り返って
 - ② 保護者の意見の集約 — 参観日に関するアンケートの集約等

- (3) 学校要覧、学年・学級経営案の作成 → 参照【資料4・P5 資料5・P6】
 - ① 保護者向け学校要覧 — 平成15年度の目指す学校像や教育活動等の紹介
 - ② 学年・学級経営案 — 自己評価を含めた新たな形式

- (4) 教育委員会への報告書作成 — 教育課程の評価を中心に報告を予定

報告書の活用について

4月中旬に配付する「学校評価システムの在り方」の補足資料として、1年間学校評価の研究を行った研究実践校の取組を報告書にまとめました。

各市町村教育委員会・学校におきましては、この報告書及び「学校評価システムの在り方」を活用していただき、各学校で学校の自己評価システムの整備をお願い致します。

書 告 贈

目 次

1 日南市立吾田小学校	
I 学校評価についての年間の取組	1
II 学校評価の事例取組	2
III 三学期の成果と課題	10
2 佐土原町立広瀬中学校	
○ 学校の評価システムの確立に向けての取組	11
○ 資料	14
○ 参考	18
3 県立飯野高等学校	
○ 授業に関するアンケート (教科・科目毎、平成14年10月実施)	20
○ 職員アンケート	21

II 学校評価の事例

- 1 学校の教育活動の公開 — フェスタ in 吾田
 ○ 学校の教育活動を公開することにより、家庭、地域社会の学校に対する理解を深めるとともに、さらなる連携の強化を図る。



公開授業

8:15~9:00 全学年一斉授業

公開講座

9:10~10:10

- 英会話
- 和太鼓
- 英語教室
- 手話
- 和だこ

ふれあいフェスタ 第1部

- 学年発表
- 作品展

10:30~12:00 体育館

ふれあいフェスタ 第2部

- カラオケ
- 獅子舞
- ジャンパ (アフリカの太鼓)
- マーチングカラーガード
- お楽しみ抽選会

12:00~14:30 運動場

スローガンです!
 夢きらり みんなで広げる吾田の輪

期日:平成15年 2月 8日(土)

主催:吾田小学校 吾田小PTA

- 2 外部評価への取組
 ○ 保護者の理解、協力を得ることをねらいとして、学校改善の視点を明確にした評価表を作成した。
 ○ 保護者の意見を聞き、学校の教育活動に十分反映していくことを考えている。

[例] 外部評価表 — 吾田小の1年間を振り返って
 吾田小学校の1年間を振り返って

今年1年の吾田小学校の教育活動やご家庭との連携等いかがだったでしょうか。学校改善に生かすためのご意見として、このアンケートを作成しました。どうぞ、率直な評価、ご意見をいただきますようお願いいたします。
 * 評価の欄の5~1のいずれかに○をお願いします。
 [1・2・3・4・5・6] 年保護者

期	評 価 内 容	評 価
学 習 指 導	吾田小の学習指導の現状について満足されていますか	5 4 3 2 1
	学校週5日制も考慮に入れた家庭学習との連携を図った課題が出されていますか	5 4 3 2 1
	吾田小の読書指導の進め方はいかがでしたか	5 4 3 2 1
	吾田小の学習指導に対する要望がありましたらお書きください { }	
生 徒 指 導	子どもの個性や主体性を伸ばす指導は適切でしたか	5 4 3 2 1
	子どもの安全意識を育てる指導は適切でしたか	5 4 3 2 1
	校内・校外を問わず生活面での指導は適切でしたか	5 4 3 2 1
	声かけ事案等に対する生徒指導日より適切でしたか	5 4 3 2 1
	吾田小の生徒指導に対する要望がありましたらお書きください { }	
健 康 指 導	健康診断の結果の連絡や保健日より適切でしたか	5 4 3 2 1
	学校における体調不良や怪我等に対する対応は適切でしたか	5 4 3 2 1
	学校給食についての指導や情報提供等は適切でしたか	5 4 3 2 1
	体育的行事等体力面での指導は適切でしたか	5 4 3 2 1
	子どもたちの健康指導に対する要望がありましたらお書きください { }	
学 校 経 営 全 般	運動会等の学校行事の内容は適当でしたか	5 4 3 2 1
	今年度の吾田小学校の教育活動の状況は適切でしたか	5 4 3 2 1
	吾田小の開かれた学校としての公開度はいかがでしたか	5 4 3 2 1
	フェスタ in 吾田の内容は適切でしたか	5 4 3 2 1
	今後どのような面で学校は変わってほしいと思いますか { }	
	学校からの情報としてどんなことをお知りになりたいですか { }	
	学校とPTAが一体となった行事等に対する要望がありましたらお願いします { }	

〔例〕 参観日についてのアンケート集約結果についての文書

保護者各位

平成15年 1月29日

日南市立吾田小学校
校長 岩崎守男

参観日に関するアンケート集約結果のお知らせ

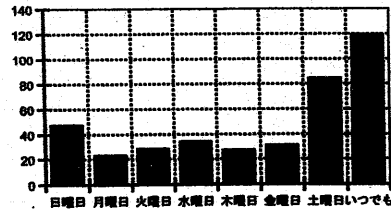
年が改まって早いもので1ヶ月過ぎようとしています。保護者の皆様におかれましては、御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先日「参観日についてのアンケート」をお願いしましたが、全PTA戸数の約7割から、ご回答がありました。下記の保護者の皆様の貴重なご意見をできる限り参考にして、平成15年度の参観日を設定します。御協力ありがとうございました。

1 曜日について

出席可能な曜日に○をつけてください。

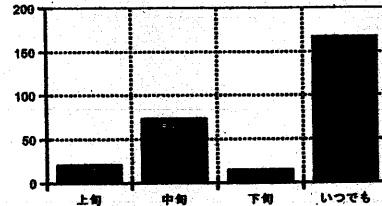
出席可能な曜日 (複数回答)



2 期間について

月の期間の出席可能な欄に○をつけてください。

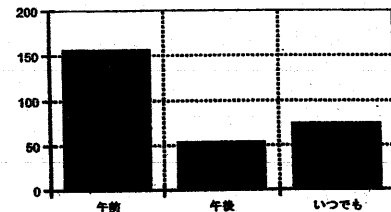
出席可能な期間 (複数回答)



3 日程について

出席に都合のいい時間帯に○をつけてください。

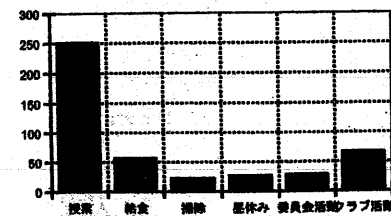
出席に都合のいい時間帯 (複数回答)



4 参観内容について

内容として、ご覧になりたい内容に○をつけてください。

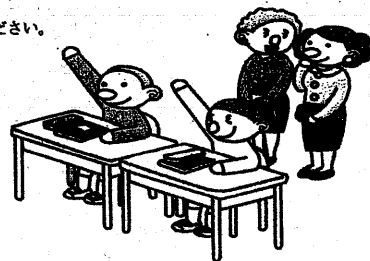
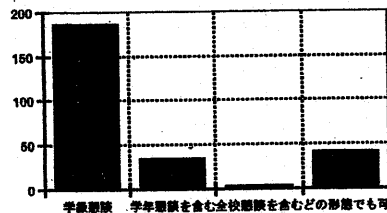
参観内容 (複数回答)



5 懇談の形態について

懇談の形態について、希望する欄に一つ○をつけてください。

懇談会の形態



3 学校要覧、学年・学級経営案の作成

- 家庭や地域社会に学校の教育目標や教育活動等の計画案を示し、学校教育に対する理解を深めることをねらいとする。(学校評価と関連させる)
- 学校改善や教師個々の指導力の向上に生かす。

〔例〕 平成15年度の保護者向け学校要覧作成のための基礎資料

平成15年度・吾田小はさらに飛躍します



基礎学力の向上を図ります

- 基礎学力の向上
 - ・基礎的・基本的事項の理解
 - ・スキル学習の徹底
 - ・少人数指導の充実 (習熟度・課題別学習等)
- 問題解決能力の向上
 - ・課題把握能力の育成
 - ・自力解決能力の育成
- 体験的な学習の充実 (総合的な学習の時間を中心に)
 - ・地域学習の充実
 - ・英語体験学習
 - ・パソコン学習 等

たくま
ましい
子
が
んば
る
子
あ
か
る
い
子

目指す子ども像
実現に向けての
学年テーマ

1年「
2年「
3年「
4年「
5年「
6年「

豊かな心を育みます

- 「吾田小よい子の一日」の積極的活用を図ります
- 安全意識を高めます
 - ・車、水、火、声かけ
 - ・不審電話等への対応
 - ・正しい自転車使用
- 校外生活の指導にも努めます
- 交友関係づくりなど楽しい学校生活を創造します

健康でたくましい
体力づくりに努めます

- 定期健康診断結果を生かします
- 保健、給食、体育指導の充実にも努力します
- 健康面の行事の充実を図ります
- 健康情報の積極的な提供に努めます

家庭や地域社会との連携にさらに努めます

家庭と

- 参観日の充実
- 家庭学習の連携
- 個別の教育相談

地域社会と

- 参観日の自由参観
- 「フェスタ in 吾田」への参加案内
- 運動会への招待
- 交流給食への招待

年間の主な行事

- 4月 入学式
- 5月 春の遠足
- 6月 球技大会
- 7月 水泳記録会
- 9月 運動会
- 10月 陸上教室 音楽大会
- 11月 修学旅行 秋の遠足
- 12月 持久走大会
- 1月 書き初め展
- 2月 フェスタ in 吾田
- 3月 卒業式

指導力の向上にがんばります

- 地域を知る
- 地域と交流する
- 地域に働きかける

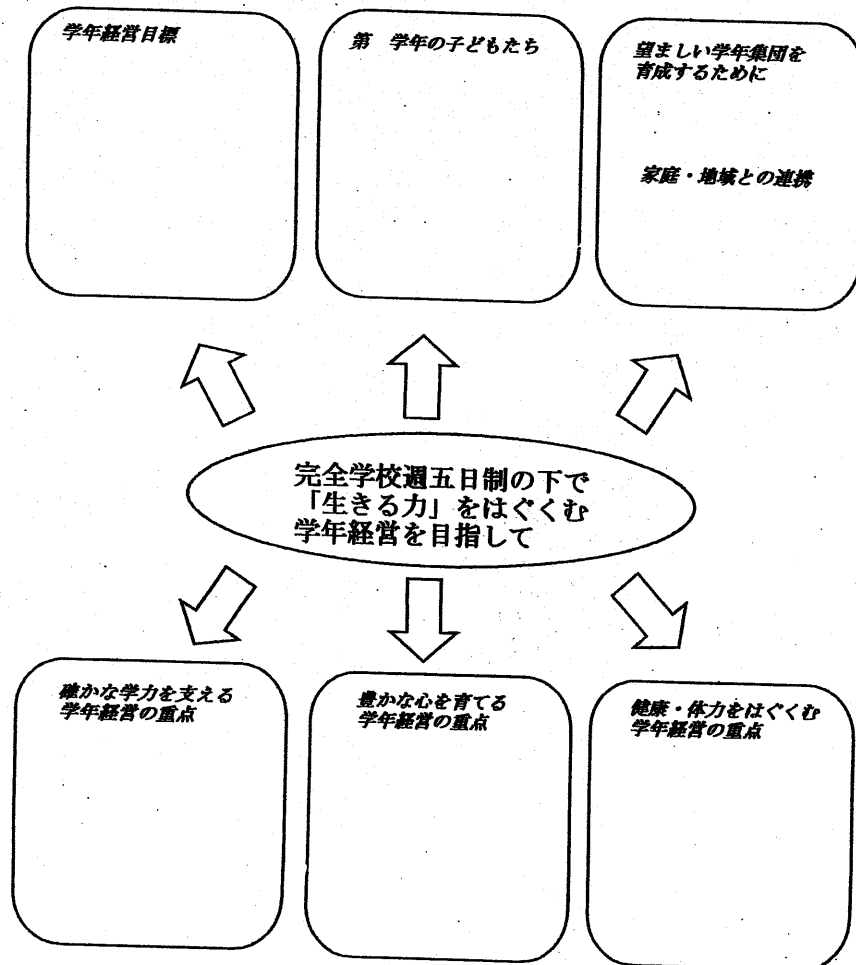
* 学力向上についての研究発表会を実施します。(11月に計画)

* 一人一実践に努めます。

〔例〕 平成15年度の学年・学級経営案の原案

平成15年度 第 学年 学年経営案

組	担任名	在籍数			PTA戸数	主な校務分掌	教科担当		
		男	女	合計			A	B	C
1									
2									
3									



第 学年 学年経営案 P 2

評価項目	1 学期	2 学期	3 学期
確かな学力を支える学年経営			
豊かな心を育てる学年経営			
健康・体力を育む学年経営			
その他			

1 学期		2 学期		3 学期	
校長	教頭	校長	教頭	校長	教頭

平成15年度 第 学年 組 学級経営案

在籍 名 担任

学級経営目標 ～人間性豊かな実践力のある子どもを育てるために～

児童の実態 (学習面)

児童の実態 (生活面)

確かな学力を育てるために

基礎・基本の確実な定着

わかる授業、楽しい学校の表現

わかりやすい授業の展開、個に応じた指導の充実

自ら学び自ら考える力の育成

体験的な学習、問題解決的な学習の重視

国際化、情報化への対応

総合的な学習の時間の充実

各教科等で獲得した知識・技能の総合化
総合的な学習の時間で身に付けた力を各教科等の中で生かす方策

豊かな心を育むために (心の教育の推進)

道徳授業の充実

学級における生徒指導・教育相談活動の充実 / 同和教育の推進

健康で安全な生活をおくるために

地域と共にある学校を目指して (家庭・地域との連携)

年 組 学級経営案 P 2

評 価 項 目	1 学 期	2 学 期	3 学 期
確かな学力を育てるために	基礎・基本の確実な定着		
	わかりやすい授業の展開、個に応じた指導の充実		
	体験的な学習、問題解決的な学習の重視		
	国際化、情報化への対応		
	総合的な学習の時間の充実		
豊かな心を育むために	道徳授業の充実		
	学級における生徒指導、教育相談活動、同和教育の推進		
健康で安全な生活を送るために			
家庭・地域との連携			

1 学 期		2 学 期		3 学 期	
校 長	教 頭	校 長	教 頭	校 長	教 頭

III 三学期の成果と課題

三学期の研究の成果と課題については、次のように考えている。

	成 果	課 題	今後の方向性
教職員の自己評価と意識	① 学習指導や生徒指導に関する指導目標の設定と自己評価については二学期より継続しているため、学校評価に関する意識が高まってきている。 ② 主題研究の推進に当たっては一人一実践を目指してきたが、自らの指導力向上に対する意識が高まり、授業研究にも創意工夫が見られるようになってきている。	① 指導者によって、学習指導、生徒指導等の指導目標のレベルに差が見られる。 ② 目標内容や具体的な手だてが抽象的すぎて、具体的に評価しにくいものがある。 ③ 自己評価における評価規準の設定が必要である。	・学年、学級経営案の形式、内容を改めて自己評価ができるようにする。 (資料4参照) ・目標と評価の一体化についての理解を図る。 ・自己評価についての評価規準を作成していく。
保護者・地域社会との連携強化	① 二学期に継続して、学校評価の結果や学校の教育活動等の情報提供を心がけている。 ・学校便り「さくらざか」 ・校長室通信「桜坂」 ② 保護者の意見や要望を聞き、次年度の学校経営の構想に生かしている。 ・参観日についての意見等 ③ 学校の教育活動を保護者、地域の人々に公開し、学校への理解を深めている。 ・フェスタ in 吾田	① 保護者にとって、関心のもてる内容や分かりやすく、楽しい紙面づくり等に努力する必要がある。 ② さまざまな機会をとらえて保護者の意見を聞く場や機会を設定することがさらに望まれる。 ③ 地域社会における学校の役割について、さらに教職員の意識を高める必要がある。	・保護者との連携を深めるための学校からの各種の連絡、通信等を工夫する。 ○学校便り ○校長室通信 ○生徒指導だより ○学習指導だより ○健康指導だより ○学年・学級通信 ・保護者の意見を聞くための場や機会として、参観日の工夫をする。
学校評価と学校改善の視点	① 学校全体が学校評価の研究の理解や自己評価の意義をよくとらえ、その結果を学校改善や自らの指導力向上に生かそうとしている。 ② 校務分掌の面からも学校評価の結果を次年度の指導部の運営に反映されている。 ③ 保護者や地域社会に開かれた学校づくりや学校の特色づくりなど基本的な考え方を理解することができた。	① 目標や自己評価の内容や結果等について外部に公表するのに適しないものもあり、細部にわたる検討が必要である。 ② 学校評価のための評価に終わることなく、学校の改善や指導に反映する視点をより明確にする必要がある。 ③ 学校評価の説明や公表に対する保護者や地域の人々の意見集約を図る必要がある。	・年間を見通した学校経営と学校評価との関連を明確にし、保護者等の理解も図っていく。 ・学校要覧により、学校の1年間の流れの理解を深め、連携を強める。 ・学校の教育活動を積極的に公開し、保護者や地域の人々の理解を深めるようにする。

学校の評価システムの確立に向けての取り組みについて

佐土原町立広瀬中学校

はじめに

平成14年度「学校の評価システムの確立に関する研究協力校」としての5か月の取り組みであり、報告という形でまとめられる程の実践にまでは至っていないが、以下がその概要である。

学校評価の意義や制度的な根拠等についての理解を深めるための啓発や次年度からの実施に向けての準備段階としていい機会となった。

1 学校管理規則への位置付け

佐土原町立学校管理規則では、「学校の自己評価及び保護者等への説明」を次のように規定している。

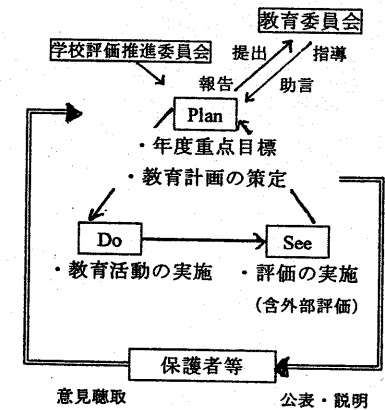
第6章 管理及び運営
 (学校の自己評価及び保護者等への説明)
 第71条 校長は、必要に応じ学校の教育目標、教育計画及び自己評価を年度当初に保護者等に説明するものとする。

条文には、年度当初に説明することとして、「教育目標、教育計画及び自己評価」が示されている。当然、前年度の評価に基づき教育目標や教育計画は示されるものであり、いわゆる「PDS」のサイクルを通してなされることになる。その意味からも、そのサイクルにおける各段階での具体的な取り組みを工夫する必要がある。これまでも学校においては、各学期末に項目を洗い出して評価を実施し、以後の計画や実施に生かしてはいる。

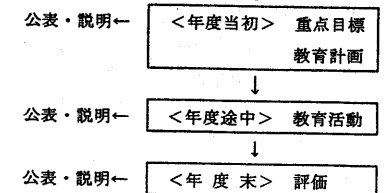
しかし、評価そのものが公表を前提としたものではなく、もちろん様式についてもそのことを想定はしていない。そこで、これまでの評価項目や評価基準、評価方法を公表を前提として見直すとともに、公表の方法についても検討を加えていく必要がある。

今後の学校評価システムの在り方としては、「PDS」の各段階で、公表や説明、外部評価の導入、意見聴取等を取り入れていく方向になるう。

モデルを図に示すと次のとおり。



なお、年間を見通した学校評価のプロローグを次に示してみる。



2 学校評価推進委員会の設置

学校評価について、新たな取組みを始めるに当たって、「学校評価推進委員会」を発足した。構成は既存の「企画委員会」と同じにして、効率的に進められるようにした。

この会は各校務分掌・学年の主任等から構成されているので、調整や意見聴取等の場としての分掌部会や学年部会にスムーズに伝わることになる。

3 外部評価導入の試行

今後、自己評価に限らず、保護者や学校評議員など外部の目で見られた評価も取り入れ、より客観的にとらえて、学校の改善に生かしていくことが求められる。

委嘱を受けて以降、体育大会、文化発表会と保護者や学校評議員、地域の方々にも参観していただく機会があった。

その折りに、各学級から抽出した保護者代表及び学校評議員全員に、項目を示して率直に評価をしてもらった(学校日より「風」参照)。何れの行事も概ね良好との評価をいただいたものの、数的には少ないが、中に厳しい見方、評価が含まれている。この大きな評価の開きが、これまで学校にとって見えていなかった部分であろう。ここに、外部の目で見られた評価の意義があると考える。このことに気づかせてもらったことは大きな意味がある。

4 生徒による授業評価導入に向けて

学校評価の中でも、授業に関する評価は重要な位置を占める。授業評価についてはこれまでも授業研究等を通して実施してきたが、生徒による授業評

価については、学校全体としての取組みはなかった。

改善すべき点を生徒の視点で捉えることができれば、生徒にとってどうあればよいか、生徒のためにどう改善していけばよいかのかが明らかになってくる。生徒にとって、直接教師に向かって、こうしてほしいなどといったことは伝えにくい。だからこそ、教師が謙虚に「生徒の生の声」を受け止めなければならない。生徒の思いや願いを受け止めて、改善に向けて努力する姿は生徒の教師に対する信頼だけでなく、保護者や地域住民からの信頼にもつながる。

学力向上に向けての中心は何といっても一時間一時間の授業である。授業評価を通して改善点が明らかになれば、「これからの授業はこうして臨む」といった方向性を生徒に示すこともできるし、そのことが教師自身が成長していくことにもつながるものである。

まだ、試案の段階である別紙「授業アンケート」については、授業改善に役立つようなものになるよう見直していく必要がある。

5 学校自己評価表の作成

学校は、年度の重点目標の具現化に向けての具体的な目標を示したうえで、教育活動を通じた結果としての成果や実績はどうであったのかを学校の責任で評価し、保護者等に公表・説明することが求められる。

もちろん、年度を通しての評価に限らず、学期ごとであったり、主な教育活動(行事)の実施後である場合も想定しなければならない。目標や計画に基づき日々の教育活動は展開されるこ

とになるが、年度途中でも必要に応じて計画の見直しが必要になってくる場合もあり得る。これまでも、学校においては、大きな行事の終了後に反省・評価を行ってきたが、次年度の行事に向けてというだけでなく、他の教育活動の実施に向けても生かしてきているのである。

公表・説明を前提としたものとして、「学校自己評価表」を作成する必要がある。

1 年度重点目標の設定

学校の中長期的な課題や運営方針等を踏まえながら、重要性、緊急性を考慮して設定する。前年度の教育活動の成果と課題を整理し、それらを踏まえたうえで目標設定にする。

2 具体的目標の設定

重点目標を達成するうえで必要な内容を具体的な目標として設定する。誰もが、「学校は具体的に何をするのか」が分かるような設定にする。教職員にとっては、特に当事者意識をもてるような目標の設定とする。その意味でも、全教職員が目標の設定に関わる必要がある。学校評価推進委員会の位置付けは大きい。

3 評価項目

目標に照らしてどうであったかを評価するのであるから、重点目標と対応する形で評価項目を設定する。公表・説明が前提であり、学校関係者以外にも分かりやすい項目にすることが重要である。校務分掌と関連させると、項目も設定しやすいし、評価しやすい。

評価項目としては、生徒指導、研究

研修、教科指導、進路指導、部活動など既存の校務分掌組織で分担していることを洗い出せば設定しやすい。また、学校で実際活用している評価項目も大いに参考になる。

4 具体的方策

具体的目標を達成するために、「いつまでに」、「どのように」、「どの程度」等の観点から具体的に明示する。十分達成可能な内容、レベルであり、具体的な行動が想定できるものであることが大切である。

5 評価方法等

評価方法については、段階評価を採用する。記述式の評価では、曖昧さが残り、公表・説明の際に伝えにくいと思われる。なお、段階については、3段階や5段階では「普通」という中央に集中することが懸念されるので、

A: 達成できた
B: 概ね達成できた
C: あまり達成できなかった
D: 達成できなかった

の4段階とする。

評価基準については、変容の姿を想定して設定しておく必要がある。数値目標は分かりやすいが、項目によっては慎重な検討を要する。公表・説明に耐え得るものでなければならない。

おわりに

具体的な実践というまでには至らず、試案や私案でしかないものも含めてまとめてみた。

次年度早々には、本町の学校管理規則に規定されたことが、学校の責任で実施できるよう整備していきたい。

風

広瀬中学校
H14.10.7発行 2-②

天気にも恵まれた体育大会。「生徒の演技に涙が出ました。」という感想もいただきました。一生懸命の姿は人の心にまで届くということを、改めて感じた体育大会でした。

来年は今年以上の体育大会にしたいという思いで、学校としての反省、生徒会としての反省や評価を行ったところです。

今年は、学校や生徒会という学校内だけの評価ではなく、来賓としてご鑑賞いただきました学校評議員の方や各学級の保護者代表の方に、外から見た目で評価をお願いします。29名の方に無記名のアンケート形式で回答をいただきました。その結果をお知らせいたします。

項目は6項目。
それぞれ、「4：よい 3：だいたいよい 2：あまりよくない 1：悪い」の4段階で評価をいただいております。

項目① 生徒は出席した競技等に熱心に取り組んでいましたか。	評価 人数	4 21	3 8	2 0	1 0
項目② 生徒の応援席での態度はどうでしたか。	評価 人数	4 14	3 15	2 0	1 0
項目③ 係りやリーダーは責任を果たしていましたか。	評価 人数	4 2	3 7	2 0	1 0
項目④ 生徒の風紀面 (服装・頭髪等)、規律、マナーはどうでしたか。	評価 人数	4 10	3 18	2 1	1 0
項目⑤ 生徒の全体的な印象はどうでしたか。	評価 人数	4 15	3 14	2 0	1 0

すべての項目について、「よい」「だいたいよい」の評価をいただきました。また、項目④については、「ハコバンプラントを履まで下けている姿やシャツ出しの姿がとても気になった。」というコメントがありました。

*全体を通して「良かった」と思われたものとして、ソナー節 (衣装もパツチリ・踊りも迫力、頑張っって練習したのでね)、思い出のバトンダンス、胸を打たれた一生懸命の応援、エール交換、きびきびとした部活動紹介、職員のリレー参加、失初の渡し、生徒に対する職員の声かけ、団対抗リレー、200M走、フォワードダンス、生徒が中心になって活動していた点、地区対抗、絆倒し

*全体を通して「指導が必要だ」あるいは「問題だ」と思われたこととして、ソナー節の1・2年生の少人数少しかつた、リレー選手の手選考はまちんとした方がよい、男子の徒走で後半勝負を打ち合わせていたように感じました

- *その他の意見・要望として、
・一生懸命な姿に感動しました。8年生のカラーがとてよく出た様に思いいます。
・最後の夕陽からさみしいと思います。思い出のバトンダンスは感動します。
・放送設備を充実してほしい。家庭応援席用のテントが欲しいです。来賓、PTAの種目は必要でしょうか。
・保護者に見えやすいよう、改訂が必要だと思います。
- *今年最後の運動会。今年ばかり早く終わった感じがした。全体によかったと思う。ソナーダンスも団体練習が多ければいい。
- *赤白に分ける基準がクラス別なのか不明ですが、一考を要しませんか。
- *応援者に限定せず、地域町民が参加できるプログラムがあったらよいと思いませんか。
- *練習の中、とてもよく頑張っていたと思います。来年も最初から見たいと思います。
- *3年生を先頭いろんな姿を出し合って練習したのである程度応援には、すばらしく、何かゾーンとかがあったと思います。久しぶりに1日があったという間の、笑いあり、涙ありの楽しい体育大会でした。お疲れ様でした。ありがとうございました。
- *先生たちも頑張ってもらって、とても楽しく見させていただきました。



＜結びわりに＞

貴重なご意見等いただきました。本当にありがとうございました。全体としては、生徒たちの一生懸命の姿が伝わったのではないかと考えています。もちろん、楽しいご感想もいただきましたが、改善に向けて努めて参りますのであります。今後とも、本校の教育活動に對して、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます、報告に代えさせていただきます。
「学校全体が温かく感じました。まっつ、生徒の仲がよいと思われ、すが、」職員一同、元気をいただいたご感想でした。ありがとうございました。
*全体を通して「良かった」と思われたものとして、
・3年生の選抜団 (進路選択の今の時期に合っており考えさせられた。今年はずりよりもよく聞かされた。)
・合唱コンクール (練習の成果が伝わった。3年生が待てよかつた。)
・1年生の夢 (書道)、英語弁論、職員会議、点検面、先生の書
*全体を通して「指導が必要だ」あるいは「問題だ」と思われたこととして、
・保健室を利用したあとに出るゴミの分別ができていなかった (あとが大変でした。)
・保護者席の私語がやや気になりました。
・閉会行事での表彰は、正面ではなく横からの方がよい、
といった意見をいただきました。



風

広瀬中学校
H14.12.11発行

11月17日 (日) に、「みんなで楽しく、青春のジグソーパズル」のソロソングのもと、文化祭実行委員会を開催いたしました。ステージ部門、展示部門とも日頃の学習成果を見ていただくいい機会となりました。ご覧いただいた保護者の方の「家で受け継ぎませんが、子どもたちは成長しているんですね、学年全体として成長を感じている機会になりました」という感想はとてもうれしいものでした。合唱コンクールでは、ナレーションを聞きながら練習を受けてくれた、ソナー節の表彰がその学級であらば、すべての学級にあげたいと思いが持っていました。特に3年生の合理的一生懸命さとそのまっつとまった追いという思いで、学校としての来年度に向けて、今年以上の文化祭委員会にしたいという思いで、学校としての反省や評価を行ったところです。

体育大会後にも実施はしましたが、学校内だけの評価ではなく、来賓としてご鑑賞いただきました学校評議員の方や各学級の保護者代表の方に、外から見た目で評価をお願いします。29名の方に無記名のアンケート形式で回答をいただきました。その結果をお知らせいたします。

項目は6項目。
それぞれ、「4：よい 3：だいたいよい 2：あまりよくない 1：悪い」の4段階で評価をいただいております。(保健室等の関係で鑑賞できず、評価のない方があり、合計が23にならない項目もあります)

項目① ステージでの発演は熱心に取り組んでいましたか。	評価 人数	4 19	3 3	2 0	1 0
項目② 生徒の観賞態度はどうでしたか。	評価 人数	4 9	3 12	2 0	1 0
項目③ 展示物の内容はどうでしたか。	評価 人数	4 13	3 8	2 0	1 0
項目④ 文化祭実行委員は責任を果たしていましたか。	評価 人数	4 15	3 6	2 0	1 0
項目⑤ 生徒の風紀面 (服装・頭髪等)、規律、マナーはどうでしたか。	評価 人数	4 10	3 11	2 0	1 1
項目⑥ 生徒の全体的な印象はどうでしたか。	評価 人数	4 12	3 11	2 0	1 0

＜結びわりに＞

貴重なご意見・ご感想、本当にありがとうございました。全体としては、生徒たちの一生懸命の姿を見ていただいただけではいかかと思っております。評価の「2」や「1」という厳しい評価をいただいた項目もあつたと思いますが、これも実態でございまして、このような実態を見たい機会になつたことでも、参観の意識と考えます。今後とも、本校の教育活動に對して、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます、報告に代えさせていただきます。
「ステージ発演は大変好評がもてました。」といううれい感想もいただきました。引き続き、本校の教育活動に對して、お力添えをしていただきますようお願い申し上げます。今後とも、子どもたちのためにお力添えをしていただきますようお願い申し上げます。最後にPTAの方々からお礼を申し上げます。また、学校評議員の方々には、お忙しい中、最後のプログラムまでご覧いただきありがとうございました。



授業アンケート

平成 年 月 日
年 組 氏名 ()

* このアンケートは、授業を生徒のみなさんがどのように受け止めたかを知り、これからの授業をより分かりやすく、学ぶことの楽しさを味わうことができるように改善するための資料にするものです。

2学期のこれまでの授業に関して、自分にもっとも当てはまるものに○印をつけてください。

質問への回答は、「とてもよい」：5、「よい」：4、「普通」：3、「あまりよくない」：2、「よくない」：1の5段階で評価し、○印を付けてください。

教科名	社会	授業担当者	A	先生
-----	----	-------	---	----

項 目	5	4	3	2	1
1 先生の授業の進度（スピード）はどうですか。	3	16	10	1	2
2 先生の声の大きさはどうですか。	15	12	5		
3 説明のときの話し方はどうですか。	7	13	10	1	1
4 説明の仕方はどうですか。	7	9	13	1	2
5 板書の仕方はどうですか。	(1) 板書のていねいさ	7	19	5	1
	(2) 板書の量	7	18	5	1
	(3) 板書のまとめ方	9	15	7	1
6 先生からの質問の程度はどうですか。	4	14	13	1	
7 授業の工夫（プリント、教材等）はどうですか。	9	13	7		3
8 先生の授業に対する熱意はどうですか。	13	14	4	1	
9 先生の生徒への注意（私語等）はどうですか。	9	12	8	3	

10 授業に対して要望があれば書いてください。

- ・分かりやすく説明してほしい。(1人)
- ・プリントではなく、できるだけノートを活用してほしい。(1人)
- ・出てきた内容を簡単に覚えられるようになりたいです。覚えるのが苦手だから。(1人)

平成14年度 学校 自己評価表

広島 瀬 中 学 校

評価項目	学校運営計画(4月)					評価時期→					評価時点での主な課題
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
学校運営方針	進め、信頼感あふれる人間関係のもとで、生徒が主体となり活動する学校づくりを推進する。										
昨年度の実績	重点目標 指導力(教科)を高め、生徒の基礎学力の向上を図る。 生徒指導体制を確立し、生徒指導の機能を生かす。 保護者等との連携を深め、開かれた学校づくりを進める。 「生きる力」を育成する教育活動を推進する。 生徒の道徳性の涵養に努める。 生徒の自主性の涵養に努める。					具体的方策 学期1回の授業研究会を実施する(指導案検討も事前に行う)。 年5回の参観日の授業を地域にも公開する。 生徒による授業評価を学期1回実施する。 上記評価をもとに検討会をもち、その後の方針を立てる。 家庭学習の実態調査を各学期1回実施する。 1日2時間以上の家庭学習の時間を確保させる。 定期考査前に質問紙調査や個別学習の時間を3日間設定する。 定期考査30点以下の生徒に対し、個別指導のあと再試験を課す。 学期1回の事例研究を中心とした生徒指導研修会を実施する。 生徒指導の機能をすべての活動に位置づける。 「ふれあい通関」を各月1回設定し、あいさつ運動を進める。 年1回礼法指導のための講話会を実施する。 生徒指導だよりを各学期に2回発行する。 2か月に1回は関係機関との情報交換の場を設定する。					
学習指導	校内研修に位置づけた「授業研究会」を実施させる。 生徒による授業評価を実施し、分かる授業を目指す。 家庭での学習の定着を図る。					学期1回の参観日の授業を地域にも公開する。 生徒による授業評価を学期1回実施する。 上記評価をもとに検討会をもち、その後の方針を立てる。 家庭学習の実態調査を各学期1回実施する。 1日2時間以上の家庭学習の時間を確保させる。 定期考査前に質問紙調査や個別学習の時間を3日間設定する。 定期考査30点以下の生徒に対し、個別指導のあと再試験を課す。 学期1回の事例研究を中心とした生徒指導研修会を実施する。 生徒指導の機能をすべての活動に位置づける。 「ふれあい通関」を各月1回設定し、あいさつ運動を進める。 年1回礼法指導のための講話会を実施する。 生徒指導だよりを各学期に2回発行する。 2か月に1回は関係機関との情報交換の場を設定する。					
生徒指導	校内研修に位置づけた「授業研究会」を実施させる。 生徒による授業評価を実施し、分かる授業を目指す。 家庭での学習の定着を図る。					学期1回の参観日の授業を地域にも公開する。 生徒による授業評価を学期1回実施する。 上記評価をもとに検討会をもち、その後の方針を立てる。 家庭学習の実態調査を各学期1回実施する。 1日2時間以上の家庭学習の時間を確保させる。 定期考査前に質問紙調査や個別学習の時間を3日間設定する。 定期考査30点以下の生徒に対し、個別指導のあと再試験を課す。 学期1回の事例研究を中心とした生徒指導研修会を実施する。 生徒指導の機能をすべての活動に位置づける。 「ふれあい通関」を各月1回設定し、あいさつ運動を進める。 年1回礼法指導のための講話会を実施する。 生徒指導だよりを各学期に2回発行する。 2か月に1回は関係機関との情報交換の場を設定する。					

平成14年度体育大会アンケート用紙

本日は体育大会をご参観いただきありがとうございました。今後のために率直なご意見をお願いいたします。

- 1 生徒の様子について、あてはまるものに○をつけてください。
 (評定は、4:よい 3:だいたいよい 2:あまりよくない 1:悪い
 をお願いします。なお、評定の2または1につきましては、具体的にご記入
 いただければ参考にさせていただきます。)

①	生徒は出場した競技等に熱心に取り組んでいましたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				
②	生徒の応援席での態度はどうでしたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				
③	係やリーダーは責任を果たしていましたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				
④	生徒の風紀面(服装・頭髪等)、規律、マナーはどうでしたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				
⑤	生徒の全体的な印象はどうでしたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				

- 2 体育大会の全種目及び開閉会行事など全体を通して、良かったと思われたものがあればお書きください。

--

- 3 全体を通して、「指導が必要だ」あるいは「問題だ」と思われたことがあればお書きください。

--

- 4 その他、種目や実施時期等を含め、ご意見があればご自由にお書きください。

--

平成14年度文化発表会アンケート用紙

本日は文化発表会をご参観いただきありがとうございました。今後のために率直なご意見をお願いいたします。

- 1 生徒の様子について、あてはまるものに○をつけてください。
 (評定は、4:よい 3:だいたいよい 2:あまりよくない 1:悪い
 をお願いします。なお、評定の2または1につきましては、具体的にご記入
 いただければ参考にさせていただきます。)

①	ステージでの発表は熱心に取り組んでいましたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				
②	生徒の鑑賞態度はどうでしたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				
③	展示物の内容等はどうでしたか	4	3	2	1
	評定の2または1について	うか			
④	実行委員は責任を果たしていましたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				
⑤	生徒の風紀面(服装・頭髪等)、規律、マナーはどうでしたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				
⑥	生徒の全体的な印象はどうでしたか	4	3	2	1
	評定の2または1について				

- 2 文化発表会のプログラム内容及び開閉会行事など全体を通して、良かったと思われたものがあればお書きください。

--

- 3 全体を通して、「指導が必要だ」あるいは「問題だ」と思われたことがあればお書きください。

--

- 4 その他、実施時期等を含め、ご意見があればご自由にお書きください。

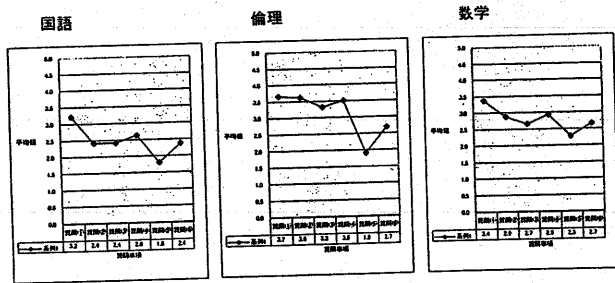
--

(1) 目的

- ① 教師が学習指導の改善を行い、生徒一人一人にその場面で最適の方法を選び、学習状況を的確に捉えているかどうかを客観的に判断する。
- ② 評価を分析し、発問の工夫等のフィードバックを行うことで授業の改善を図り、「わかる授業」「参加する授業」「生徒指導を機能させる授業」を目指す。

(2) 実践例

	国語					倫理					数学						
	質問①	質問②	質問③	質問④	質問⑤	質問①	質問②	質問③	質問④	質問⑤	質問①	質問②	質問③	質問④	質問⑤		
総点	132	99	108	74	97	150	148	136	144	78	110	138	118	109	120	93	109
平均	3.2	2.4	2.4	2.6	1.8	2.4	3.7	3.6	3.3	3.5	1.9	2.7	3.4	2.9	2.7	2.9	2.3
5	6	1	1	2	0	0	11	10	6	7	1	1	9	4	5	4	0
4	6	6	5	5	1	3	6	7	9	11	2	6	4	7	3	6	4
3	20	10	14	18	9	15	23	22	18	19	7	16	23	15	14	18	14
2	9	16	11	8	12	17	1	2	8	4	13	15	3	10	11	9	12
1	0	8	10	8	19	6	0	0	0	0	16	3	2	5	8	4	11



質問①	授業を受ける環境、心構えができていますか。	5) 高い
質問②	授業中の先生からの発問、説明、板書はわかりやすいですか。	4)
質問③	あなたにとって「わかる授業」になっていますか。	3) 普通
質問④	参加する授業になっていますか。	2)
質問⑤	あなたは学習または復習を毎日行っていますか。	1) 良くない
質問⑥	あなたは基本的な知識や技能がしっかりと身についたと思いますか。	

(3) 成果と課題

- ① 生徒による学習に関するアンケートの成果として、教師が授業の主役は生徒であることを再認識することができた。
- ② 生徒による学習アンケートをどこまで配布するかを現在検討中である。現在、本校職員と学校評議員に配布している。

1. 研究授業実施者 24名

- 2. 本年度の研究授業の流れに沿って、先生の授業内容や方法は改善されましたか。空欄に○をつけてください。 ※ 本年度の研究授業

	全体	総計
(1)改善された	14	
(2)変わらない	5	

生徒指導の機能する授業
わかる授業・評価の工夫

- 自己存在感を与える
- 共感的人間関係を育成する
- 自己決定の場を与える

- 3. 改善してきたことはどのようなことですか。下記の項目の空欄に○をつけてください。(改善した点はすべて答えてください。)

(1) 生徒を活動させる時間が多くなった。	4
(2) 多くの生徒に発表の機会を与えるようになった。	3
(3) 共感的人間関係の育成に気を配るようになった。	3
(4) 生き方についての話題を取り入れるようになった。	4
(5) 授業内容の展開を工夫するようになった。	8
(6) 発問の仕方を工夫するようになった。	3
(7) 生徒の興味・関心を引く題材を多く扱うようになった。	7
(8) 授業の中で、個別指導の時間を多くとるようになった。	2
(9) 実験・実習等を多く実施するようになった。	3
(10) 課題をだすようになった。	8
(11) 小テスト等を実施するようになった。	8
(12) その他 (ご記入ください) 公共物や施設の使い方の指導をしたい (2)	

- 4. 自分の授業を振り返り、次の各項目とも5段階評価で数字を記入してください。

⑤ ④ ③ ② ①
良い 普通 良くない

	⑤	④	③	②	①
(1) 生徒にとって「わかる授業」になっていますか。	1	4	15		
(2) 発問の工夫がなされていますか。	1	4	12	3	
(3) 生徒との信頼関係が成り立っていますか。	1	3	16		
(4) 生徒が自ら思考し、判断する場面を設定していますか。	1	3	13	3	
(5) 生徒が積極的に表現(発表)する場面を設定していますか。	3	3	10	3	1
(6) 生徒の興味・関心(やる気)を引き出す工夫をしていますか。	2	6	9	3	
(7) 基本的な知識や技能をしっかりと定着させるような手立てをしていますか。	2	15	3		

